

# 職業指導の位置づけ

—西日本会場資料—

—出席者—

池田種生	後藤豊治	長谷川淳	杉山一人	鈴木寿雄	清原道寿
------	------	------	------	------	------

(順不同)

☆ 研究座談会 ☆

## 職業・家庭科と職業指導

A 今夏姫路の会場で、職業・家庭科と職業指導の位置づけという主題で研究会を行なうについて、参考資料として、みなさんの話を録音し、問題点をいくつかとり出しておきたいと思うのですが、もちろん結論を出すというのではないのです。後藤さんが最近「生活指導」という本を書かれ、その中に職業指導の一つの位置づけをされていると思うので、関連して話合って頂くとよいと思えます。まづ、私も時々地方へ行って、実務家と話し合おうのですが、職業・家庭科と職業指導がかなりこんがらがっているように思えます。その辺から、話を進めて頂いたらどうでしょうか。

C 私はあまり多く見ているわけではないが、最近は一歩も進んでいない、トライアウトとして職業指導に結びつける傾向よりも、職業準備としての扱いの方が多いのじゃないですか。この間東京のある中学校へ行っただけです。そしたら校長さんが、PTAから百五十万円と出してもらって、これで職業指導が画期的に進展するというようなことをいっているんです。それからPTAの会長も同じよ

うなことをいいたのですが、それはともかくとして、この校長の考え方は、仕事をさせることは職業の準備で、職業指導だという考え方のようなんです。こんな混乱は、いたる処で見られるのじゃないでしょうか。

F 職業教育・職業家庭科・職業指導などの区別がはっきりしていないことからくる混乱ですね。一般の人がそれをごちゃごちゃに考えることは、戦後の動きからいって無理もないことだが、職業・家庭科と職業指導を無理に結びつけて、職業・家庭科は職業指導のためにある教科だと公然といっている学者などもあるんだから。

E そう、意識的に、職・家の中に職業準備や職業指導を持ちこもうとする動き……

D 校長さんだけでなく、職・家担任の先生までがそうなんですか。

A そりあ相当あるようですね。

E 職・家と職業指導がごちゃごちゃにされてくる原因ですがね。職・家はこうだ、職業指導はこうだとわかっていても、それを平易な形で訴えるものがないんじゃないかと思えますがね。非常にむづかしいというか、固い段階にあるためではないですか。

A 職業指導というと、現場では就職あっ

## 職業指導主事制について

A 少し話をかえて。昨年からは職業指導主事制というものができたが、それが多く職・家の先生におしつけられているようなんです。その辺の事情を一つ……。一般に職・家担任がやるのだという風になっているんですね。

E そういう規定はないと思うんですけど……。

B あれができるについては、前からアメリカのようなカウンセラーをおいたらという話があって、とりあえず職業指導主事をおこうということになったのですが、一般ガイダンスの中に、職業指導をおくかどうかの問題で、結局職業指導を教科の外におくというところが、はっきりしてきたのです。ところが最近やたらに、カウンセラーはガイダンス一般を取扱うものだ。だから職・家の中にも、まだ職業指導の任務が残っているのだというようなことを聞いて廻っているらしいんです。あれができた頃は、職・家が職業指導主事を兼ねるべきだというようなことはなかったですね。

E ええ、そうですね。

せんが主となっているのじゃないですか。  
E 単的にそうですね。何よりも手っ取り早くて結果がすぐわかるのは就職あっせんなんです、それ以前の問題について訴えるものがないということですね。だから職業指導といえれば就職あっせんとなるので、その点で現場をあまりせめるのは、酷だと思わうのですがね。

A それもそうだね。

E 理論的にあの昭和二十五年の通達ですか、あれから一歩もでないのも相当多いですよ。色々な意見がでたり、第一次、第二次建議などがでて、学校教育法第三十六条第二項などを引っぱり出して、やはり職業指導を中心強調するわけですからね。

(注) 学校教育法第三十六条第二項「社会に必要な職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」

A 現場には、前からそういう性質があるんだから、ああそうか、それでよいのかということになる。

E もっと実証的にやってみたらどうかと思わうのです。例えば、職・家でやっている仕事、どれほど「啓蒙的経験」に役立ったか

ということを、理論ではなく具体的に……。

F ところが、実際は職業指導について発表する所では、あまり設備などはなくて、それほど仕事に訴えてはいないね、適性検査の道具などを備えつけている所はあるけど。テストなどを用いてカウンセリングする。それによって就職あっせんするといったことにおわっているようだ。

C しかも、それはああいっただ機械を用いること大して自信を持っていないで、何だかよいようだといっているのであるのじゃないですか。

E 日本人というのは、いかにも科学的であるようなものを持っていくと、すぐまいっちゃうからな。

C テストによる検査というものが、実際社会ではその通りにならない。従って教師の側でも生徒の側でも大して信頼していないように思われるんですが。

E それは義務としてやっているとすよ。あれをやっていないと職安で受け付けてくれないから。

F 義務としてやると共に、子供たちにあきらめさせる道具さ。(笑)あっちへ行きたいのを、こっちへ行けという方便に使ってる。

B 今となつては困っているようです。

A 困っているというのには？

B それはちよつと……。まあある団体が……。(笑)

E カウンセラーの話がでたから疑問に思っていることがあるのですが、元米、カウンセラーというのは、専門家ではなくてはならない。それが現場では副校長位の人でなくてはならないといわれる。その意図はどこにあるか。カウンセリングという仕事は、決して一人ではできないので、立案、計画をカウンセラーが立てて、ホーム・ルームティチャーの全教員によってなされるべきだと思う。その意味でカウンセラーは専門家ではなくてはならないと思うのです。それが副校長級でなくてはならぬということ、むしろ外部との接し方に重きがおかれているからですね。つまり職安とか、求人側との交渉という場合に、それが望ましいということではないかと思うのですが、若しそうだとすれば問題だと思ふのです。

F そればかりではなく、職業指導を学校の中に強く位置づけようという意図もあるんじゃないか。

C それもあるかも知れないが、しかし学

校全体を動かすという立場からも、そうなるのじゃないかと思ひますが。

B それから校長やそれに近い地位のものがやっていたら、募集にも都合がよい、ということもあるのです。いわゆる顔がきくといひますか……。

A という結局、職業指導は、就職あつせんに重点がおかれているということになりますね。そこでですね、後藤さんの提案といひますか、さきほど話がでたが、一般ガイダンスとして職業指導をおさえるかどうか、その点について……。

C 私は原則的には一般ガイダンスの中に入れてよいと思うのです。さっきいわれたような意味とは根本的に立場を異にしているけれど、私はそれでよいと思うのです。例えば健康教育、道徳教育というようなものが、生活指導で区別されるのは無意義だし、どこからどこまでと区別することもできない。だから職業指導のカウンセラーが専門家であるとするれば、生活指導の全領域を受持つてよいと思ふのです。

A それは結局職業指導の理念の問題になつてお思ひますが、どうですか皆さん。

かすようになりやすいのじゃないでしょうか。職業指導専門のカウンセラーを、生活指導にまで拡大するのではなくて、そこに限界を設けないことには、各教科の中にそれぞれ生活指導面があるので、それを特別に切離すことは問題じゃないか。

C それは、科学的生産人を目標として、各教科がいろいろ指導する。それが適確になされたかどうか、それを個別指導によって評価し徹底させることが、要するに生活指導ではないかと思うのです。わかりませんか。

A わからぬ。(笑)

C 各教科で一つの目標をもって教育しなすね。それを達成しようとするのが教科学習だと思ふのです。そういう風な一般のことについて、個別的に見て問題点をとらえて指導するのが、生活指導じゃないかと思ふんです。

E その場合、学習指導と生活指導を別然とわけねばならない実践的な根拠というようなものがあるわけですか。例えば生活指導とはこれこれで、他はそうよばない方が実践上有効であるというふうな……。

C そういうことはいいです。

E というのはですね。生活指導という概

### カウンセラーの問題

E 現在の日本の学校にカウンセラーというものをおいた方が望ましいかどうか、もちろん望ましいでしょうが、現在の中学校以上の学校では、それでも教科担任となつて、一面において生活指導をしなくてはならないホーム・ルームティチャーの活動が、カウンセラーというものをおいたばあい、生活指導をその方へまかせきりにするという心配があまりはしないか。

C 反対のこともいえる。多人数の生徒を扱うばあい、専門のカウンセラーを要しない指導は、ホーム・ルームティチャーが受持たねばならぬというようになる。現に甲府市西中学校などはそうで、必ずしも、全部カウンセラーにまかせてしまうということはないのじゃないかと思ふのです。

B 私もカウンセラーはおいた方がよいと思ふのですが、それは、社会科やその他の教科でも、カウンセラーにきいて、どうした指導をすれば、よいかというねらいが分ると思ふ。

A しかし、やはり教科の先生としては、カウンセラーがいるんだからと、その方へま

れからというようにわけられないのじゃないか。学習指導の中にも生活指導の面は多分にふくまれているのが正しいので、人数が多くて個別指導ができないというようなことは別個の問題として解決すべきじゃないだろうか。そう判然と判明することには私には、賛成できない。

E お互にどちらかへ埋没してしまつたような見方は考えもので、両者がふんまえている足場を見きわめることは大切だけれども、一般的というか、そのどちらかにかけて見ることはどうですかね。

A 後藤さんの本では「生徒の学習も訓育も共に一つの目標に統合された生活指導に発展」とか「大胆に社会の現実に対決し、その解明への光を照射し、社会革新の意欲と行動へ云々」というような言葉が引用されているが、一体教科学習ではそうした「社会革新の意欲と行動」がなされなくともよいのか、またできないのか。殊に職業指導というガイダンスが、そんな任務を持っているのか、私は素人なのでよくわからないが、疑問を持つのです。そして「やまびこ学校」がその好例のように書かれています。私は「やまびこ学校」の場合は特殊な例で、ジャーナリス

### 生活指導と職業指導

A それは、やはり観念的なわけ方じゃないか。学習指導はここまで、生活指導はこ

ムでは騒がれたけれど、教育理論として一般  
的に近代の学校教育での正しい姿かどうか  
……。

C つまり末分化の状態……。

A そうなんだ。日本にはああいう形の生  
活指導がずっと前からあったし、今後もある  
かも知れないが、それは日本の社会の末分化  
の状態から醸成されるように思うので、教育  
理論としてはどうでしょうか。

C 私もその点は認めているつもりです。

D 生活指導というものは、非常に大きな広  
い領域を持っていると思う。社会科でも職業  
科でも教科としての限界があるが、生活指導  
となると学校教育のワクを超えて、社会教育  
との関係、PTAとの連りの問題ね。そういう  
広いものを、学校教育のガイダンス理論だけ  
で考えてよいかどうかですね。心理的なア  
プローチよりも、もっと社会的な関連がよりウ  
エイトを持ってくるのじゃないかという気が  
する。私は生活指導はそんな風に考えていき  
たいんですがね。

F 個人が個人の行動を決定することに重  
点がおかれているが、それだけでは足りない  
ので、そこに社会的問題がからんでいるこ  
と、従って子供会だの、PTAなどが生活指

導に重大な関連を持ってくる。ジョンソンの  
場合などは個人を中心に、子供の主体性に重  
点をおいている。従って、個人の心理的な色  
々な問題という点から見ている。そういう点  
が問題になるのじゃないかな。

E 言葉の上ではよいのですがね、子供が  
危機的な場合に直面して、それを意識しない  
場合だつてあるもので、そんな場合にも生活指  
導はあり得る。もっと積極的な指導もあって  
よいのではないかな。

C そうだと思いません。

### 職業指導の位置づけ

A そこで今度は、職業指導の位置づけと  
いうことについて……。

C それは、前にもいったように、職業指  
導だ、健康指導だ、余暇指導だといつても、  
それ等が割然とわけられるわけではないので  
それ等全体が生活指導だと思ふのですが。

F 生活指導は健康指導でもあり、職業指  
導でもあるという意味。

A とすると生活指導即職業指導というよ  
うにもとれるが。

E 去年の「職業指導」だったかに、誰か  
が書いているのを見ると、生活指導は現代へ

の適用で、職業指導は将来への適用だと規定  
されていたのですが、随分ラフな規定だと思  
う。しかし職業指導は生活指導の中の主要な  
位置かどうか、職業指導の立場からは、主要  
な位置を占めるだろうか、私の考えている生  
活指導の構想では、やはり一分節にすぎない  
ように思う。だから、職業指導を生活指導の  
中にふくめることはよいけれども、それだけ  
ではいけないので、職業指導には、もっと他  
の位置づけがあるのじゃないかな。

C というところ……。

E 生活指導の中にはいろいろある。無限  
にあるといえるので、それをプリンシプルに  
すると、職業指導の位置づけが、あまり広が  
って、職業指導独自の性格がでて来ないで、  
かえって生活指導が職業指導におきかえられ  
ているような気がするのです。

F そう、職業指導が生活指導であるよう  
な気持——それを意識づけるために使われる  
言葉は、子供は将来職業につくのだから、と  
いわれている。ここに問題があると思いま  
すね。

E この本にある職業指導の技術は、生活  
指導の中で職業指導に傾斜をおいた場合のも  
ので、もっと他に職業指導の考え方や技術が

あると思う。

D それは生活指導と職業指導の概念規定  
の問題であると思うが……。

A 後藤さんの考えだと、職業指導という  
ものが非常に広がっている。もっと限定した  
方がよいのではないかな。職業指導は、常識的  
にいうと、より現実的な問題である。それを  
解決する方にむしる重点があるので、そこが  
今日の問題なんですね。だから現場がそこに  
集中するのは無理からぬのじゃないか。職業  
指導を、生活指導というものにまで広げると  
いうのではなく、もっとせまく規定した方  
が、危な気がなくてよいのじゃないかと、私  
は思うのです。

F 職業指導を生活指導の一分節と見るこ  
とはよいだろう。

A うん、それはいいと思うね。

F 職業指導について、アメリカの一九三  
七年か、将来の職業選択の能力云々と規定し  
ているんだが、それを文字通り受けとったら  
どうか、と思うんだが……。

A 私の場合、理論的というより実際の  
なんだが、いわゆる社会革新の云々というよ  
うなことは、各教科が考えねばならぬことだ  
と思う。例えば、職業指導のとする社会経済情

報と職・家や社会科という社会的経済的理解

では、その視点がちがひ、この後者の場合に  
こそ、社会革新の云々が必要なんではないか  
と思うので、そこまで職業指導がくいこむの  
は、そのねらいがボヤけてくるように思う。

F あまりに広げたために、職・家科との  
混乱もでてくるね。

C 私がそんな風に広げたのは、従来の職  
業情報のとおり方にしても、あまりに現実への  
追従で、生徒の新しい意欲を培う面が忘れら  
れているので……。

F わかる。それはわかります。ただね、  
マイヤーにしても文部省の職業指導の手引な  
ども、ぼつと並列的に並べてあるんだが  
どこに重点がおかれているのか明かでない。  
啓蒙的経緯ということでも、アメリカの事情  
はよくわかりませんが、それは各教科でなさ  
れることで、結局選択と決定がカウンセリン  
の所で行われるというおさえ方、それからが  
職業指導ではないか。それ以前のことには、各  
教科にまかせざるべきではないかという気がし  
ますね。

C 私の考え方を、もう一段下におろして  
というのですね。その点はよくわかりまし  
た。

### 現実に直面する現場

A そこで、職業指導の範囲がきまれば、  
今度はその中でいかに職業指導を扱うのがよ  
いかということになるのだが……。

F だからね、第一次建議でカウセリング  
としての職業指導といっている、あれ以下が  
本格的なものと考えてるのが正しいように思  
う。教育の指導はそれそれ交錯しているので  
ダブっている面がある。ちょうど三角形をいく  
つもあつめたように、職業指導でもそのダブ  
ッてる面と、それを除いてた面とがある。そ  
れが指導の内容となるんだけど、ダブッて  
いない面が特に重点に考えられていく必要が  
あると思う。

C というのは、選択と決定の基盤になる  
ものは、他教科にゆづって、それ以後の処理  
をどうするかということに重点がおかれると  
いうことですね。

F 並列的にあれもこれももたらせて、ど  
こにねらいがあるのかわからないようなのは  
問題だと思えますね。

D あまり現実的になると、サクセフル  
リービングというか、現実に応応するような  
指導をすればよいという結論になるので、今

までの職業指導がそうなんだが、それでよい  
かどうか。

E 消極的にはそういうことにもなりません  
がね。そんなら職業にまかしてしまおうとなる  
と、そこにいくつかの弊害が生じる。その弊  
害の生ずる面を防ぐことに、学校で指導する  
べきではないかと思えますね。

A ところが、現場が職安の下うけではね  
(笑)。今、いわれたような傾向は現実的には  
一面必要なことも、教育理論としては成立  
たない。だが、そればかりで、現実を忘れて  
は指導できないというシレンマに陥ることに  
なりそうだね。

E 現実の社会がもっと改造されて、適性  
や希望に応じて就職できるという場合、しか  
も背後の社会が理想的である時、正に生活指  
導即ち職業指導となる。現在の日本では、な  
かなかそうはいかない。だからイヤでも、不  
適格でも就職しなければ生きていけない。こ  
の社会の現実を見つめて、より教育的な指導  
が必要だと思ふのです。

F アメリカの職業指導の動きを見ると、  
それがよく現われているように思う。第一次  
世界大戦後非常に活潑になったので、アメリ  
カの繁栄の時期には、影をひそめている。そ

の辺に面白い問題があると思われる。

E 職業情報の与え方が非常に社会的に  
なる。そうやってよいのですが、現状に対し  
て希望が持たなくなるが、そうなるも教師は  
処方箋を書けなくなる。結局、現実と妥協し  
なくてはならない。そればかりではないが、  
少くとも現実的には、妥協になるのじゃない  
ですかね。

C 現実に入っていくかなくてはならない。  
その入らせ方が問題じゃないですか。

B 平たくいえば、黙っておくりこむので  
はなく、よく分かっている。因果をふくめ  
て……。(笑)

E そうなると、後藤先生の理論では、も  
っと純粋なんだから、ここからは因果をふく  
めてということではでこないように思われま  
すね。(笑)

A まだ論じつくされたとはいえないが、  
この辺で具体的に、では現状ではどうすれば  
よいかという段階になるのだが、それは一つ  
の研究会で論議することにしたら……。

F そう、後藤さんはいくつかの柱を考え  
てきてもらって、それを提案としていくよう  
にしたらいいね。  
A ではどうも、御苦労さんでした。

### 科学技術者の 社会的関心

最近では原子力の平和的利用と  
いうことが世界的に広まり、わ  
が国でも濃縮ウランをアメリカ  
から受け入れるかどうかについ  
て論議が盛んである。大いに尖  
端を行くつもり保守党の若手  
政治家が、独占資本の産業経営  
者と歩調をそろえて、すぐにも  
受入れるべきだというのに対し  
て、若干の科学技術者を除いて  
学界では慎重論が大勢を占めて  
いるらしい新聞の報道を見て、  
科学者の良識への信頼を強くし  
た。

○ 従来の科学技術者一般の空気  
としては、何でも自分の領域だ  
けて考えて、それだけ日本の科

学技術が進歩するのだからよい  
ではないかと思勝ちである。  
ところがそれは、科学を社会的  
的に観るもので、甚だ危険であ  
る。科学技術者が常に警戒しな  
なくてはならない盲点がそこにあ  
る。

科学技術の進歩は望ましいこ  
とであるが、それが社会と結び  
ついた産業や経営に持ちこまれ  
るばあ、今度は社会科学に照  
して見なくてはならない。科学  
技術者がそれはおれの知ったこ  
とではないとすましていてよい  
はずはない。サートンの「科学  
史と新ヒューマニズム」(岩波  
新書)にまつまでもなく、現代  
の科学技術者は「私は合理性の  
追求者である。それがどんな社  
会的影響を与えるかは、私の関  
心したことではない。それによる  
社会悪の矯正はあなたの方にまか  
せる。」とキリスト教宣教師にい

ったという、かつての態度では、  
もはや通用しないであろう。ま  
してや、彼等を支配下において、  
権力を持って屈せしめようとす  
るばあ、敢然として立つだけ  
の「社会的正義感」を持つのが、  
今後の科学技術者の態度といえ  
るのである。

○ ところが事実はなかなかそう  
ではないらしい。科学技術に専  
念することによって、自らカラ  
を作り、その中に閉じこもって、  
それが及ぼす社会的経済的關係  
(生産諸関係)を省みないので  
多いとのことである。かつての  
専門的実業教育を受けたものや、  
エンジニアにそれが少くなっ  
た。宛も精神的な教育のカラに  
閉じこもる教育者がいたように、  
今もそうであるとすれば嘆かわ  
しい限りである。若し社会通念  
が、科学技術者や反対の教育者

をそう見ているとすれば、大い  
にその通念を打破らなくてはな  
らないであろう。

### 投稿 敬 迎

○ それにしても、今度の濃縮ウ  
ランのばあいは、声なき国民の  
悲願が相当強く反映しているこ  
とは争えないだろう。科学技術  
の正しい使い方は、その教育が  
うした大衆のバックが必要であ  
り、それ故にこそ、この教育が  
益々大切であるということにも  
なるのである。(中山生)

(宛 先)

東京都中央区銀座東五ノ五  
産業教育研究連盟  
「職業と教育」編集部

(6ページよりつづく)

筆者は、先ず実際のプロジェクトに含ま  
れている要素を、一応指導区分に従って配  
列した「要素指導表」をつくり、それに基  
いて実際の学習指導計画を立案する方  
法をとっている。このような手続きによれ  
ば、プロジェクトの中に含まれている要素  
が明確になるし、指導のポイントが適確に  
把握できる。その例を「ラジオの組立」に  
とって、要素指導表と学習指導計画を表示  
しておく。

(学習指導計画表は更に具体的に示され  
たものでしたが、紙面の都合上省略する  
のやむなきに至りました―編集部)

以上、工業的分野の学習指導について、  
日頃実践しているところを述べてみた。あ  
らたまって文章にあらわすと、意を尽くせ  
ないところが多く、あるいは十分な理解を  
いただけぬかもしれないが、この拙文が、  
教育現場のこうした問題に対して、何かの  
研究の糸口ともなれば幸甚であると思っ  
ている。大方の御批判と御指導を願ってやま  
ない。(中央産業教育審議会専門委員)